

地域おこし協力隊「アーティスト支援プログラム」

目的

年収 100 万円未満が大多数のイラストレーターが、地方で生活と創作を両立。地域文化を活かした作品で地域貢献と定住を実現。

背景

- 日本の漫画アニメは世界に誇る文化だがイラストレーターの 98%が年収 100 万円未満
- 現状は都市部で非正規雇用をしながら創作を継続している
- 地方なら生活コストを抑えて創作時間を確保できる

協力隊としての活動（地域貢献）

- ゆるキャラ・観光 PR グッズ制作
- 地域イベントのポスターや SNS 漫画
- 高齢者向け、子ども向けアート教室
- 商店街のシャッターアートなど

創作活動支援

- 空き家を活用した作業スペースの提供
- 地域の風景や文化をテーマとした創作支援
- SNS・展示会での発信・販売支援

定住・継続支援

- 副業収入（グッズ販売・クラウドワーク等）の確保
- アトリエ開業や地域ブランドとの連携支援
- 地域との関係構築による定住意欲の向上

自治体のメリット：地域の魅力を可視化し、文化によるまちづくりを推進

協力隊員のメリット：生活と創作の両立、作品の実績化、定住後の安定活動が可能